

エネルギープラザ竣工

熱輸送で地域貢献も

三重中央開発



金子文雄社長

大栄環境グループの三重中央開発（三重県伊賀市、金子文雄社長、☎0592・20・1119）は9月6日、新たな焼却・熱利用施設「エネルギープラザ」を竣工した。同日には竣工祝賀会と内覧会を開催。来賓や関係者等400人を招き、新施設の前途を祝した。

今回竣工したエネルギープラザは敷地面積4万1039平方メートルに、2基の焼却施設処理能力237ト/日×2のほか、焙焼施設（同187ト/日）、乾燥施設（同100ト/日）炭化施設（同30ト/日）を備える。焼却施設はロータリーキルン方式で、し尿、動物の死骸以外のほとんどの産廃が受け入れ可能だ。焼却施設には排熱ボイラーを備えており、4000キワットを発電して場内電力を賄う。

さらに、国内ではめずらしい熱輸送システム「ヒートランスコメンテナシステム」に対応。既存の廃棄物運搬車両に搭載できるよう新たに開発した蓄熱コンテナで熱を輸送し、地域の福祉施設の温浴設備等に熱供給する。



エネルギープラザ外観

祝賀会

に先立ちあいさつに立った同社金子社長は「当施設は次の世代に向けた事業、次世代の基盤になり得る施設として整備した。当社事業に深い理解を寄せてくださる地元のためにも、地域貢献・社会貢献と言える事業を行っていききたい」と述べ、関係者への感謝と今後の抱負を語った。これに対し、三重県知事をはじめ衆院議員、伊賀市長等の来賓より祝辞が送られた。祝賀会のあとに開催された内覧会では、施設の見学が行われ、参加者らは熱心に耳を傾けていた。